YONEMORI TIMES
Vol.97 2025.9.10 発行



関東工場 鉄構部

北原大和

知人の誘いをきっかけに、未経験で鉄骨の世界へ。そこで待っていたのは、自らの仕事の価値を実感する大きな感動と、1㎜の重みを知る奥深いものづくりの世界だった。趣味の探求心をそのままに、巨大な鉄骨の組立てに挑む北原大和。その情熱の源泉に迫る。

小さな部品が建物になる感動、現場見学が教えてくれた仕事の価値

知人の一言が、北原を鉄骨の世界へと導いた。当時、東京のスーパーでパートとして働いていた北原は、正社員雇用という条件に魅力を感じ、2019年に株式会社ヨネモリの門を叩いた。鉄骨に関する知識はまったくなく、まさにゼロからのスタートであった。

仕事観を根底から揺るがす出来事が、入社1年目に訪れた。大正大学の建設現場を見学したときである。それまで工場で一次加工を担当し、部品としてしか見ていなかった鉄骨が、巨大な建築物として実際に組み上がっていた。自らが孔をあけ、切断した部品が、たしかにそこにあったのだ。

「担当業務の『その先』を見て、まず感動しました。建物がずっと使われると考えると、本当に大きな仕事をしていると実感します」。

最近では、日本橋の再開発現場を見学する機会を得た。歴史的な外観はそのままに、内部の鉄骨をすべて入れ替えるという、テレビ番組でも特集された著名な建物の工事である。その頃には組立てを担当するようになっていた北原は、自分が組んだ梁がどのように使われ、各部品がどのような役割を果たしているのかを、より深く理解できた。現場を見るたびに目々の仕事に意味と目的を見いだせるようになり、ものづくりの面白さはさらに増していった。

焦らず丁寧に、次工程へと思いを馳せる仕事術

北原が何よりも大切にしているのは、焦らない姿勢である。

「焦ると冷静な判断ができなくなり、『これでいいや』と不確実なまま次工程に流してしまいがちです。後でやり直すとなると、倍以上の時間がかかる場合もあります」と北原は語る。いかなるときも落ち着いて確実な作業をおこなうことが、結果的に一番の近道だと自らの経験から学んできたのだ。

もう1つの信条は、丁寧さである。単に綺麗な仕事をするという意味ではない。梁の組立てと仮付け溶接という自身の作業が、次の溶接工程にどう影響するかを常に考える姿勢を指す。スピードを重視する人もいるが、北原は溶接時の熱による変形を予測し、移動中に部品が外れぬよう、確実な仮付けをおこなう。次工程の仲間が安全かつスムーズに作業できることこそ、本当の意味での良い仕事だと考えているからだ。

プラモデル作りが仕事の糧に、好きを力に変える探求心

北原の探求心と器用さのルーツは、15年来の趣味であるプラモデル作りにあった。組立てから塗装まで、時間を忘れて没頭する。その「好き」という気持ちが、驚くほど現在の仕事に活かされている。「自分が『やってみたい』と言ったときに、挑戦させてもらえるのがこの会社の魅力だと思います」。

その言葉通り、北原は自ら希望し、一次加工から塗装、そして現在の組立てへと、活躍の場を広げてきた。塗装の工程ではプラモデルで培ったスプレー塗装の技術が役立ち、組立てでは、形になっていく過程そのものに、趣味と通じる楽しさを見いだしている。

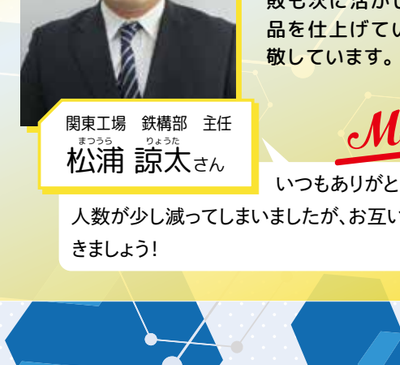
「たかが1㎜」から「されど1㎜」へ、大組(おおぐみ)への挑戦

「『1㎜』に対する認識が、入社してがらりと変わりました」。

巨大な鉄骨を扱うからこそ、わずか1㎜の誤差も許されない。その価値観の変化こそ、北原がプロの職人として成長した証である。

視線は、さらに先へと向いている。柱や大組への挑戦である。最近、北柏の物件で大組を経験する機会を得た。溶接後の変形まで計算して組む、さらに高度な世界。その奥深さと難しさに触れ、「もっとスムーズにできるようになりたい」という想いは、一層強くなった。

小さな部品を丹念に組み上げ、1つの世界を創り出すプラモデル作り。お客様を想い、より良い売り場を模索したスーパーでの日々。そして今、巨大な鉄骨を相手に、1㎜の精度を追求している。フィールドは変わっても、「どうすればもっと面白くなるか」を考え、楽しむ姿勢は変わらない。その探究心こそが、ものづくりの未来と会社を支える力となるだろう。



企業情報

- ◆創 業 年：1918年5月（大正7年）
- ◆設 立 年：1968年5月（昭和43年）
- ◆年　　商：8,156百万円（令和7年3月）
- ◆従業員数：119名（令和7年3月）

北原さんへのメッセージ

日々の業務をともに頑張る2名の仲間からのメッセージをお届けします。



関東工場　鉄構部　主任
松浦(まつうら) 諒太(りょうた)さん

尊敬しているところ

北原さんはどんな作業も一通りこなせる、頼もしい人です。たまにある失敗も次に活かし、良い製品を仕上げている点を尊敬しています。

Message

いつもありがとうございます。
人数が少し減ってしまいましたが、お互いに頑張っていきましょう!



関東工場　鉄構部　課長
江田(えだ) 達也(たつや)さん

尊敬しているところ

北原さんとは20年以上の付き合いになりますが、怒っている姿を一度も見たことがありません。私も感情のコントロールを心がけていますが、未熟なため、ぜひ見習いたいと思っています。

Message

これからも、組立工のリーダーとして周りを引っ張っていけるよう頑張ってください!

部署クローズアップ

鉄構2課





鉄構部 鉄構2課 課長
ずい 貴史（いとう たかし）さん

鉄の断片が巨大な柱や梁へと姿を変え、建物の骨格を創り出す、「組立て工程」。その最前線に立つ瓢課長に、課の特長と仕事の流儀を伺いました。鉄構2課の強さの秘密に迫ります！

鉄構2課はこんな課です！

鉄の断片から、巨大な柱・梁へ生まれ変わる

社員とアルバイト、合わせて 16 名が所属する鉄構2課の業務は、建物の骨格となる柱や梁を組み上げる「組立て工程」。柱の組立ては、大きく分けて5つの工程を経て完成します。「タンコロ」と呼ばれる部材の組立てから始まり、仕口、シャフト、大組。最後に小物付けという工程を段階的に踏むことで、大きな柱になります。梁の組立てはさまざまなパターンがありますが、一次加工された材料を組立てる工程がメインで、組立てた製品は溶接や検査といった次工程に向けて、他部署へと引き継がれます。

鉄構2課の魅力

個性豊かな職人集団が「ゼロから形を創り上げる」

課の雰囲気は「個性派揃い」です。昔ながらの職人気質な人からユニークな人までさまざまですが、アットホームというよりは、各自が持ち場で力を発揮し、連携しています。仕事の魅力は、ゼロから形を創り上げていく達成感。複雑な形状のものを組立て終えたときの満足感は格別で、柱1本に2日を要することもあり、一つひとつが大きな喜びにつながります。また、私たちの強みは「工場のことは自分らに任せてくれ」と胸を張れる技術力。現場での製品修正や他部署への応援も多く、部署を越えて頼りにされていると感じています！

鉄構2課のキーパーソン



課長 岡田（おかだ） 和夫（かずお）さん

大ベテランの職人で、誰もが尻込みするような複雑な形状の製品にも貪欲にチャレンジしています。その挑戦する姿勢に学ぶことばかりで、真面目な印象と面白い趣味とのギャップも魅力的。ぜひ本人と話してみてください！

鉄構2課のムードメーカー



早松（はやまつ） 諒（りょう）さん

真面目で、育休を率先して取得するなど若い世代の良い手本となっています。休憩中は早松さんの周りに自然と若手が集まり笑い声が絶えず、いるだけで場が和む存在です！

鉄構2課の目標

ベテランの技を未来へつなぐ

「若手が大ベテランの技を一つでも多く盗むこと」が目標です。在籍する60代の職人が長年培ってきた技は私たちの財産です。例えば、熱による鉄の歪みを読み、逆側を加工してまっすぐに仕上げるような、経験に裏打ちされた技は一朝一夕では身につきません。日々の作業に真摯に向き合う中で熟練の技を見て学び、課の全員で成長していきたいと考えています。口下手な課長ですが、これからも鉄構2課をどうぞよろしくお願いします！





ヨネモリのマシンラインナップ vol.2

私たちの街にそびえ立つ超高層ビル。その骨格となる鉄骨「柱」は、ここ鉄構2課の「柱大組台」の活躍によって生み出されています。巨大な設備でありながらも繊細な仕事ぶりを発揮する、その技術の核心に迫ります。

今回紹介する機械

柱大組台

私たちが製造する超高層ビルの鉄骨「柱」。その生産に欠かせないのが柱大組台です。シャフトやパネル（仕口）といった複数のパーツを一つに「仮組」する重要な役割を担います。横幅約3m、長さ12 ～ 13mにもなるこの巨大な設備は、まさに鉄構2課のメイン設備。油圧機能や「エレベーター」と呼ばれる昇降装置によって、巨大なパーツもmm単位で正確に組み合わせられます。ロボット溶接機の増強に伴う生産量向上のため、2台に増設もされました。私が入社した30年前から稼働しており、今や無くてはならない存在となっています。





鉄構部
鉄構2課 課長
岡田（おかだ） 和夫（かずお）さん

アピールポイント

油圧とエレベーターが可能にする「合わせやすさ」

最大のアピールポイントは、何と言っても「合わせやすさ」。柱を構成する部品は一つひとつが何tにもなる非常に重いもので、安全に組み立てるためにもmm単位の精度が求められます。人の力だけでは困難を極めますが、油圧装置やエレベーター機能を使えば、狙った位置に正確に合わせることが可能。品質の高い製品を作るためには不可欠な機能です。

もう一つ、作業効率を高めるために必要な存在が「ピット」。柱大組台の下の床が掘り下げられ、作業者が下から回り込んで作業できるようになっており、安全かつ効率的に作業を進めることができます。

柱大組台を用いる仕事のやりがい

難易度の高い仕事だからこその達成感

本社および関東工場では、柱大組台を用いて年間約2万tもの鉄骨を製造しており、その多くが首都圏などの超高層ビルに使われています。自分たちが手掛けたもので完成した巨大なビルを見ると感慨深く感じます。特に、デザイン上斜めになっている柱など、**難易度の高い物件をやり遂げたときの達成感は格別。**後日、現場から「きれいに建ったよ」と報告をもらうと、心から嬉しくなります。組立て部署である我々にとって、自分たちの仕事がうまくいったと聞くのが最大の安心材料ですし、街で完成したビルを見上げたときには「あれは私たちが手掛けたのだ」と、大きな誇りを感じます！

⚠ 使用する際の注意ポイント

1つのミスが大きな事故につながる危険性

「1つのミスが大きなミスにつながる」というのが、設備を扱う上で最も肝に銘じていることです。まず注意すべき点は、ピットは深く、機械自体も高さがあるため、作業中の転落には細心の注意を払う必要があります。また、重量物を扱うため、少しでも雑に部材を置くと機械自体が曲がってしまう恐れも。

組み上がった柱は、10tを超えることもありますが、あくまで「仮組」の状態です。完全に溶接されているわけではないため、**運搬時の衝撃で折れてしまう可能性もゼロではありません。**事故を防ぐため、吊り具の検証や足元の動線確認、製品に合わせた運搬方法の選択など、考えられるすべての対策をチーム全員で徹底しています。

実際に製造した製品例



Let's BBQ ヨネモリグループの互助会企画 BBQ大会を開催しました！

開催日時：
2025年7月25日(金)18:00 ～
場所：ヨネモリ本社工場 土間

当日は夕立の予報もあり心配していましたが、雨が降ることなく無事開催。本社工場では初めての平日開催となりましたが、例年と変わらないほどの社員、協力会社様などの参加がありました。また、今年は本社工場がある灯台笹町会からも参加をいただき、交流を図ることができました。

そして、ヨネモリではすっかりおなじみの「エイトマン」さんにも参加いただき、なんとなんとミニライブまで開催！コール&レスポンスさながら、大盛り上がりとなりました。

会社より景品を提供いただき、ビンゴ大会も開催。ご家族の皆様にも楽しんでいただけたかと思います。この場をお借りして、ご協力いただきました全ての皆様に御礼申し上げます！



次の互助会行事はボウリング大会を予定しています。たくさんのご参加、お待ちしております！